

令和3年7月30日
農推第1280-4号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

蒸し暑い日が続く時期です。作業時に熱中症にならないよう十分ご注意ください。

発生に注意！（8月）

水稲

トビイロウンカ

- ・6月から7月にかけて、大阪府の一部地域においては、例年より多い飛来が確認されています。
- ・トビイロウンカは稲の株元（水際）に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認しましょう。
- ・発生が見られたら、エクシードフロアブル、スタークル（アルバリン）粒剤などを散布しましょう。

斑点米カメムシ

- ・畦畔のイネ科雑草などから飛来します。
- ・出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、なるべく実施しないようにしましょう。
- ・トレボン乳剤、キラップ粒剤、スタークル（アルバリン）粒剤などを出穂期に株元まで届くように散布しましょう。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。
- ・ネット被覆している場合は、ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで殺虫しましょう。
- ・発生地域では、モスピラン顆粒水溶剤など成虫対象の登録薬剤を散布しましょう。

野菜類・花き類

オオタバコガ

- ・果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多いです。
- ・果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行いましょう。
- ・発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布しましょう。



トビイロウンカ成虫



アカスジカスミカメ



クビアカツヤカミキリ成虫

次回の情報は8月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(8月)

水稲

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病		
		縞葉枯病(ヒメトビウンカ)			
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)				
				トビイロウンカ	斑点米カメムシ

果樹

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			べと病		
			褐斑病		
				晩腐病	
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般	果樹カメムシ類				

野菜(なす)

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
		うどんこ病			
			アザミウマ類		

花き(きく)

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き(きく)			黒斑病・褐斑病		
			白さび病		
			アザミウマ類		

野菜類・花き類

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜 花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				コナガ	
				オオタバコガ	
			アブラムシ類		
			ミナミキイロアザミウマ		

水稻

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆いもち病の常発ほ場で箱施用剤を使用していない場合は、発生前に**オリゼメート粒剤**、**フジワン粒剤**、**コラトップ粒剤5**などを散布する。
- ◆発生を認めたら**ブラシフロアブル**などを散布する。

縞葉枯病（ヒメトビウンカ）



ヒメトビウンカ※

縞葉枯病発病株

特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆り病株では、新葉が垂れ下がって枯死する（ゆうれい症状）。

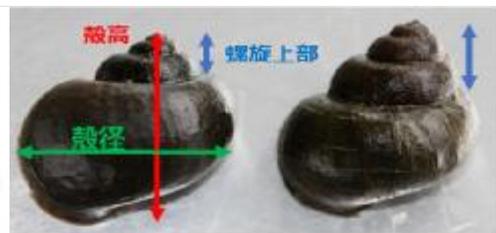
防除のポイント

- ◆ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆箱施用剤等により、ヒメトビウンカの防除を徹底する。

ジャンボタニシ（スクミリングガイ）



ジャンボタニシ
(スクミリングガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

注)当該項目「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、**螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。**
- ◆主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。

防除のポイント

- ◆ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
- ◆田植え直後に**スクミンベイト3**、**スクミノン**、**ジャンボたにしくん**などを散布する。
注)スクミノン、ジャンボたにしくん使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。



卵塊

カラー技術資料「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。

<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

トビイロウンカ



トビイロウンカ成虫



トビイロウンカ幼虫



トビイロウンカによる坪枯れ症状

特徴

- ◆ 6月下旬～7月上旬の梅雨時期に中国大陸から長翅型成虫（飛来世代）が日本に飛来する。
- ◆ 水田に着地したトビイロウンカは分けつ期のイネの株元に住み着き、茎の表面に産卵する。
- ◆ 卵は1週間ほどで孵化し、幼虫（第1世代）は親と同じくイネの株元で、その師管液を吸汁して成長する。その後、数回の脱皮を経て成虫となる。第2世代、第3世代が繁殖し、出穂期以降に多発すると坪枯れ症状が生じる。

防除のポイント

- ◆ トビイロウンカは稲の株元（水際）に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。
- ◆ 発生が見られたら、**エクシードフロアブル**、**スタークル（アルバリン）粒剤**などを散布する。

詳細は、令和3年度版病害虫防除指針の巻頭カラー特集「水稲トビイロウンカの防除」を参照。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/R3tobi_iro_manual.pdf

斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ

特徴

- ◆ アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシなどが加害する。
- ◆ 畦畔のイネ科雑草などから飛来する。

防除のポイント

- ◆ 出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、なるべく実施しない。
- ◆ **トレボン乳剤**、**キラップ粒剤**、**スタークル（アルバリン）粒剤**などを出穂期に株元まで届くように散布する。

果樹

ぶどう

べと病



べと病の葉裏の症状

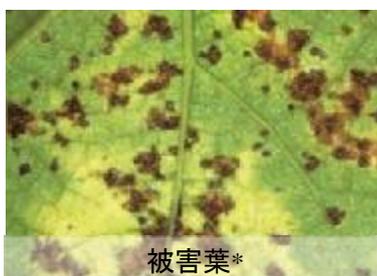
防除のポイント

- ◆発生を認めたらライメイフロアブル、エトフィンフロアブル、レーバスフロアブルなどを散布する。
- ◆収穫後にICボルドー66D、ICボルドー48Qなどを散布する。

令和3年5月21日発出の防除情報「ぶどう（特に露地栽培）べと病に注意！」についてもご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/bouj_yoj_youhou/R0305bet.o.pdf

褐斑病



被害葉*

特徴

- ◆米国系品種に弱い品種が多く、デラウエア等に発生が多い。
- ◆多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。

防除のポイント

- ◆被害葉は園外に持ち出し処分する。
- ◆発生を認めたら、フルーツセイバー、オンリーワンフロアブル、ホライズンドライフロアブルなどを散布する。

晩腐病



被害果※

特徴

- ◆糖度が高くなった収穫間際の果実に発生しやすい。
- ◆デラウエアに発生が多く、病原菌は結果母枝、巻きひげなどで越冬する。

防除のポイント

- ◆施設内への雨滴の侵入を防ぐ。
- ◆笠かけや袋かけを行う。
- ◆前年度の発生状況をふまえ、フルーツセイバー、オンリーワンフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤などを予防的に散布する。

もも

せん孔細菌病



被害果

特徴

- ◆降雨、強風によって発生が助長される。
- ◆果実は幼果～未熟果期に感染しやすい。

防除のポイント

- ◆発病葉、発病果実は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあります、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(さくら)

防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット被覆している場合は、ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけたいハンマーなどで撲殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆発生地域では、モスピラン顆粒水溶剤など成虫対象の登録薬剤を散布する。

令和3年5月12日の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyojyouhou/R0305kubika.pdf>

温州みかん

黒点病



被害果

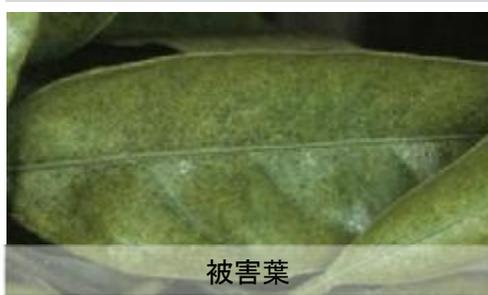
特徴

- ◆雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。
 - ◆ジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
- 注）かんきつ（みかんを除く）では3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

いちじく

アザミウマ類



被害果*

特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆スピノエース顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。
- ◆ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

果樹類全般

果樹カメムシ類

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、アディオソール乳剤（かんきつ、もも、かきなど）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）を散布する。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

野菜

なす

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

うどんこ病



葉の病斑

特徴

- ◆窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、プロパティフロアブル、スコア顆粒水和剤などを散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブルなどを散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。
- ◆栽培終了後に施設内の除草を行い、施設を密閉して蒸し込んで虫を餓死させる。

きく

黒斑病、褐斑病



葉の病斑*

特徴

- ◆降雨によって感染が拡大する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

白さび病



葉の病斑

特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める。
- ◆発生を認めたら、トリフミン乳剤を散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。

野菜類・花き類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ）、プレオフロアブル（ねぎなど）などを散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アディオン乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソンフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

令和3年6月4日の病害虫発生予察注意報第2号「ハスモンヨトウ」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/chuui/R306hasumontyuui.pdf>

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

特徴

- ◆主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（非結球あぶらな科葉菜類など）、ディアナSC（非結球あぶらな科葉菜類など）などを散布する。

野菜類・花き類

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆作物を吸汁し、生育を阻害する。また、排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、アドマイヤー顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマトなど）、コルト顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、ウララDF（なす、トマト、ミニトマトなど）を散布する。

オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。

ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆苗からの持ち込みや、周囲からの飛び込みによる発生が多く見られている。
- ◆ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病などのウイルスを媒介する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC（きゅうり、なす、トマトなど）、プレオフロアブル（きゅうり、なすなど）、モベントフロアブル（きゅうり、なす、トマトなど）などを散布する。